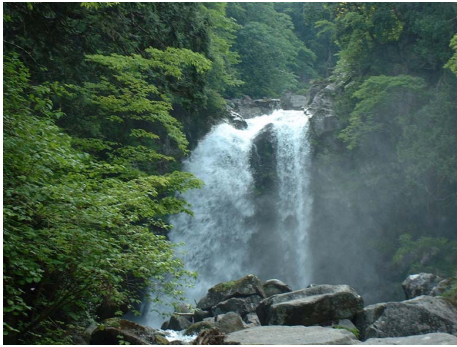


## 第 65 回目の GIS News! です



鳥海山 二の滝

爽秋の候、山形の空が急に高く澄みわたり、そよそよとながれる微風にしみじみとした秋の気配が感じられます。秋と言えば収穫の季節です。実るほどに頭を垂れる稲穂の姿は、自然の恵みに感謝を表しているようですね。庄内平野の稲刈りは、今月末から来月初めにかけて最盛期となります。

### 「市民レベル GIS 勉強会」

今年の4月に「庄内地区が“情報の過疎化地域”にならないために、市民レベルで GIS 整備の必要性を考えてみませんか」と呼びかけてスタートした会です。まずは一緒に将来の GIS への夢を語り合い、分野を超えた人と人との繋がりが、庄内地区の GIS をより良い方向に導くことも夢ではないと考える会です。

その会の第3回目「GISへの夢を語り合おう」が9月20日に行われました。

### 「第3回 GIS への夢を語り合おう」

第3回市民レベル GIS 勉強会は、防災科学技術研究所 地震防災フロンティア研究センター 川崎ラボラトリー 災害対応情報環境開発チーム 浦山利博氏に講師をお願いしました。(川崎ラボラトリー URL: <http://www.kedm.bosai.go.jp>)

開発チームは「地域の活性化の方策を提示することによって地元を知る、つまり地域を大切に自然に起こる情報化が求められている。東京ではJRの“スイカ”は特別な宣伝をしなくても定着しているが、今の GIS 普及活動は、高速道路の ETC を普及させようとするようなもの。“スイカ”に相当する GIS を提唱して行きたい。」と考えています。

また、浦山氏は「GISを災害緊急時に活用するには、地方自治体の日常業務においても導入(経済性)維持(使いやすさ)できるシステムである必要があります。

既に秋田県本荘市では、秋田県立大学の先生が中心となり勉強会を立ち上げ、GISへの取り組みを始めています。」とのお話でした。川崎ラボラトリーの先生方が研究している GIS は「DiMSIS-Ex」といい、下記の3点が特長です。

1. 時間管理が出来る。(更新処理が可能)
2. 公開型のデータ形式である。(情報公開している)
3. データがコンパクトである。

次世代の GIS “DiMSIS-Ex” が「自分の分野でも何か活用出来ることがあるのではないかと GIS への夢を膨らませた一日となりました。

近い将来「GISへの夢を語り合おう」の参加者のネットワークが広がり、Vol.56で紹介した名古屋の「GIS会館」のような施設を、庄内に設立する原動力となる日が来るのではないかと、大きな夢を膨らませております。

### 次回の GIS News!

今回は2003年10月6日発行予定です。よろしくおつき合い下さい!

## Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 佐藤まゆみ 発行日：2003年9月22日

